

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●阪神ジュベナイルフィリーズはアルマヴェローチェが優勝

12月8日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)では、アルマヴェローチェ(牝2歳/栗東・上村洋行厩舎)が優勝、G I初制覇を果たしました。

### ●川田将雅騎手のJRA通算勝利数が史上第7位となる

12月7日(土)の7回京都3日・第7レースではダノンシーマが1着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)のJRA通算勝利数が2112勝となりました。これは河内洋元騎手の2111勝を抜き、JRA史上単独第7位の記録となります。

### ●宮地貴稔調教師がJRA初勝利をあげる

12月7日(土)の7回京都3日・第1レースではヒミノエトワールが1着となり、同馬を管理する宮地貴稔調教師(栗東)は、JRA初勝利(延べ23頭目)をあげました。

### ●杉山晴紀調教師がJRA通算300勝を達成

12月7日(土)の7回京都3日・第6レースではグランブラーージュが1着となり、同馬を管理する杉山晴紀調教師(栗東)は、現役72人目となるJRA通算300勝(延べ2712頭目)を達成しました。

### ●ホウオウアマゾンの競走馬登録抹消

2021年アーリントンC(G III)の勝ち馬ホウオウアマゾン(牡6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算25戦3勝・海外1戦0勝)は、10月16日(水)に競走馬登録を抹消されました。同馬は種牡馬となる予定です。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●無敗の牝馬ミリアッドラヴが全日本2歳優駿(川崎)に優勝

全日本2歳優駿(Jpn I、12月11日、川崎、1600m)は、2番手から3コーナー過ぎに先頭に立った2番人気のミリアッドラヴ(西村淳也騎手、牝、父ニューイヤーズデイ)が、3番人気のハッピーマンを3/4馬身差で退けてデビュー以来無傷の3連勝。単勝1.4倍という圧倒的的支持を集めたナチュラルライズは4着、グランジョルノは7着、コパノヴィンセントは10着に敗れています。

### ●ネクストスター佐賀はミトノドリーム【各地の主要2歳重賞】

ネクストスター佐賀(11月4日、佐賀、1400m)は、5~6番手を進んだミトノドリーム(牝、父ゴールドドリーム)が4コーナーで抜け出して4馬身差で圧勝、単勝1.4倍の支持に応じてデビュー以来の連勝を3に伸ばしました。プリンセスC(11月3日、盛岡、1400m、牝馬)は、中団から追いつけた単勝1.7倍で断然人気の北海道からの遠征馬エイシンナデシコ(父タリスマニック)がゴール前で差し切り勝ち。ハイセイコー記念(11月6日、大井、1600m)は、先手を取った単勝1.9倍で1番人気のスマイルマンボ(牡、父デクラレーションオブウォー)が後続を6馬身引き離し、北海道から大井に転入後2連勝を達成しています。

### ●12月19日の名古屋大賞典に5戦全勝のヤマニンウルスが登場

施行時期が従来の3月から変更となった名古屋大賞典(Jpn III、12月19日、名古屋、2000m)は、58.5kgでも無敗馬ヤマニンウルスが中心、以下57.5kgの3歳馬ミッキーファイト、58.5kgのアウトレンジ、トップハンデ60kgのノットゥルノ、56.5kgのベルピット(北海道)、55kgのサンマルパトロールの順に有力視されます。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●香港国際競走~日本調教馬は勝利ならず

4つのG Iを1日でまとめて行う香港国際競走が現地12月8日に香港のシャティン競馬場で開催されました。今年は日本から9頭が参戦しましたが、G I香港マイル(3歳上、芝1600m)のソウルラッシュとG I香港カップ(3歳上、芝2000m)のリバティアイルンドの2着が最高の着順でした。

レースを時系列で振り返ると、まずG I香港ヴァーズ(3歳上、芝2400m)を制したのはイギリスから遠征したジアヴェロット(牡5歳、父マスタークラフツマン、M.ポッティ厩舎)。O.マーフィー騎手を背に中団から鮮やかに差し切ったG I初制覇となりました。そのほかの3つのG Iは全て香港調教馬が優勝。G I香港スプリント(3歳上、芝1200m)は日本でも香港でも単勝1.1倍の圧倒的な1番人気に支持されたカーインライジング(騾4歳、父シャムエクスプレス、D.ヘイズ厩舎)が、Z.パートン騎手を背に2、3番手追走から直線で抜け出して8連勝でのG I初制覇。G I香港マイルはJ.マクドナルド騎手が手綱を取ったヴォイッジバブル(騾6歳、父ディープフィールド、P.イウ厩舎)が道中2番手から残り300mを切った辺りで先頭に立つと、追い込んだソウルラッシュに1馬身1/4差をつけて優勝。今年1月のG I香スチュワーズC(芝1600m)以来となる2つ目のG I勝ちを収めました。そしてメインのG I香港カップは日本で単勝1.2倍、香港で1.1倍の1番人気となったロマンチックウォリアー(騾6歳、父アクラメーション、C.シャム厩舎)がJ.マクドナルド騎手とのコンビで先行策から直線で抜け出すと、追い上げたリバティアイルンドに1馬身半差をつけて優勝。このレース史上初の3連覇を果たすとともに、9つ目のG Iタイトルを手にかけています。